

第1B分科会

「教育課程に関する課題」

能力の育成を通してく

組になつてゐる。

ンス

指導助言

指導助言者

森田 佳之

東京都

品川区立小山小学校 校長

鈴木 孝裕

茨城県

県北教育事務所 管理主事

提言者

斎藤 健一

札幌市立資生館小学校

渋谷 恭子

常陸太田市立太田中学校

研究主題

1 校種間連携から考える教

育課程（札幌市の特色を生
かした校種間連携による教
育課程の工夫）

2 学校教育目標の実現を目
指した教育課程の実践を推
進する学校運営の在り方（
「鍛え、磨き、育む」資質

「1」について

① 取組事例

ア 小学校と幼稚園・保育園
との連携

イ 小学校と中学校との連携
・「パートナー校」における
研究活動

ウ 小学校と高等学校との連
携

エ 小学校と特別支援学校と
の連携
・児童との交流会の復活

② 成果○と課題●

○ 児童・生徒が互いに思
いやり、尊敬し合う良好
な関係の構築につながっ
ている。

ア 研究主題に迫るために方
向性の共有化を推進するた
めの役割

・視点の共通化

・特に高めた力を見確
か化

・「夢カーデ」

・子供像の共有が図られて
いる。

○ 「学び」や「育ち」を
切り口に、地域で目指す
成果を周知し、共同実
践することで、さらに推
進する。

○ 「研究の継続性」につい
ては、教育課程への位置
付けにより持続可能な組

○ 「組織的な研究の協働性」
については、組織的に小
中連携ができる取組にな
っている。

○ 「教頭の関与性」につい
ては、教頭が窓口になり、
校種間連携、地域内連携
が図られている。

○ 今後さらに、教頭間の
連携を密にし、実践交流
を深めていく。

● 活動を通して何を学ぶ
のかをしっかりと吟味し、
活動の選択をしていく必
要がある。

● 今後さらに、教頭間の
連携を密にし、実践交流
を深めていく。

● 活動を通して何を学ぶ
のかをしっかりと吟味し、
活動の選択をしていく必
要がある。

○ 学校全体で一貫した指導
・自分の未来をイメージ
していかなければならぬ。
・定期的な助言

○ 「鍛え・磨き・育む力」
を意識的に関連付け、意
欲的な取組につながった。
・ICTの活用による成長
・自己評価

○ 「習得」と「活用」のバ
ランスを取ることで実社
会での活用を考える機会
が増えた。

○ 教職員間での協力が強
化され、教育活動に基づ
いた一貫した指導が行わ
れ、授業の質が向上した。
・校種間交流の連携が継続
することで、親しみやすくな
がっている。

○ 教職員間での協力が強
化され、教育活動に基づ
いた一貫した指導が行わ
れ、授業の質が向上した。
・校種間交流の連携が継続
することで、親しみやすくな
がっている。

○ 「習得」と「活用」のバ
ランスを取ることで実社
会での活用を考える機会
が増えた。

○ 「習得」と「活用」のバ
ランスを取ることで実社
会での活用を考える機会
が増えた。

○ 教職員間での協力が強
化され、教育活動に基づ
いた一貫した指導が行わ
れ、授業の質が向上した。
・校種間交流の連携が継続
することで、親しみやすくな
がっている。

○ 教職員間での協力が強
化され、教育活動に基づ
いた一貫した指導が行わ
れ、授業の質が向上した。
・校種間交流の連携が継続
することで、親しみやすくな
がっている。

○ 「習得」と「活用」のバ
ランスを取ることで実社
会での活用を考える機会
が増えた。



第2分科会

子供の発達に関する課題

指導助言者

佐々木 香織

牛久市立神谷小学校校長

錦織 一宏

鹿行教育事務所管理主事

提言者

半藤 博士

上山市立南中学校

佐藤 則和

玉村町立中央小学校

研究主題

- 1 児童生徒の豊かな人間性を養うために―「感動する心、思いやりの心、自他を尊重する心」の育成を目指した地域学校協働活動を通して―
- 2 子供まんなか、一人一人が笑顔になるための支援の在り方―チームとして子供を支援するための教頭のマネジメントについて―

- 成果と課題
- 推進員による講師等との連絡調整により、活動に適した人材が関わることで、児童生徒のより良い学びにつながった。
- 教頭が学校の方針との適合性を図る中で、ねらいと活動の根幹についてお互いに共通理解をすることができた。

- ③ 指導助言
- ④ 指導助言
- 職員に地域づくりの視点を持たせることが重要。
- 地域の大人を活用するために、地域の声をグランデデザインに反映することが重要である。



「1」について

- ① 育成を目指す児童生徒の資質・能力の設定
- ② 上山市の特徴を生かして地域学校協働活動を開催するための教頭としての役割

みながら活動している姿が見られ、学校を核とした地域づくりに向かっている。

- ① 推進にあたっての実践事例紹介
- ② 3年生以上の教科担任制の推進と1・2年生の担任外のサポート

向けて、教頭のマネジメントはとても重要である。前向きに話し合いを進めることが大切である。

「2」について

- ① 推進にあたっての実践事例紹介
- ② 別室登校児童、外国籍児童、特別支援学級在籍児童への支援体制
- ③ 外部人材の活用
- ④ ブロックチーム担任制の導入

構築するために、デジタルを活用したりカリキュラム一覧表を活用したりすると効果的である。

第5 A 分科会

教職員の専門性に関する課題

「1」について

③ 成果と課題

た学校全体での力量形成
的な実践

④ 指導・助言

○指導助言者

・服部 優子

・大阪府

・堺市立深井小学校 校長

・稻葉 恵子

・茨城県

・県南教育事務所 管理主事

○提言者

・島根県

・中村 浩志

・益田市立真砂小学校

・田原 俊輔

・新潟県

・五十嵐 啓滋

・南魚沼市立おおまき小学校

○研究主題

1 楽しみながら学び続ける

教職員集団の人材育成に向

けた教頭の関わり、教職員のウエルビーニングの実現

に向けて、

を図った。

「2」について

2 若手教職員の授業力と生

徒指導力を高める研修と組

織体制、新潟県の教員等育

成指標をもとにした若手教

員の育成、

認された。

① 若手教員の成長促進

・新潟県の教員育成指標に基

づく授業力向上研修

・生徒指導におけるOJT研

修の実施

・中堅・ベテラン教員を含め

教職員不足、早期離職、教

育課題の多様化・複雑化が進

行している。これらの課題を

で働く教職員のウエルビーニ

ングの実現が不可欠である。

解決するためには、学校現場

で働く教職員のウエルビーニ

ングの実現が不可欠である。

解説するためには、学校現場

で働く教職員のウエルビーニ

○校長会との連携
○教頭としてのアップデート
●校種を超えた交流と継続的な研修の実施

○教頭としての悩みの共有
○校長会との連携

○指導・助言
○教頭としての悩みの共有

ア 研究の視点
ア 教員育成指標に基づく授業参観後に、バックを実施した。

・教員育成指標を活用した若手教員育成の好事例である。
・若手教員育成には、システム構築が重要となる。そして、教頭がその設計者となることが望ましい。

・成長を実感するためには、達成度の可視化が必要となる。達成度の可視化が必要となつて、教頭がそれを設計者となることが望ましい。



全国大会速報

(1) 分科会名

(2) 指導助言者

山口県下関市立

小菅 裕子氏

管理主事

高橋 由希子氏
提言者

高知県立国南高等学校

田嶋 浩美氏

中結城小学校 教頭

教職員の専門性に関する課題

香南中学校高橋教頭先生は、

教職員の同僚性・協働性の向上と学校運営参画に向けた

教頭としての役割」という主題で発表された。研究として

若年教員（15年次）とベテラン教員（6年次以上）

対しアンケートを年2回実施

員は、年度当初職務に対し充

途中ではベテラン教員間との

など興味深い考察をされてい

た。まとめとして、職場の内

エルビーアイニングを高めるためには、管理職や同僚からのサポートが必要であるということがわかった。

(6) 中結城小学校田崎教頭先生は、「指導教諭を核とした、町全体の指導力向上を目指して」という主題で発表された。研究として教頭が自校の教員の資質向上及び教育活動にどのように関わっていくことができるかを検証していく。特に指導教員との協働に焦点を当たてた取組となっていた。各自治体で差があるが、指導力のある教員や有能な人材の効果的なマネジメントに重点を置くことが必要であるとまとめていた。

高橋教頭先生の提案に対し、組織の力で対応する環境づくりが必要であり、キャリアに応じた働きかけが大事である。また、自分がキャリアに対し具体的なイメージを持つことが求められるという助言をいただいた。田崎教頭先生の提案に対しては、指導教諭の専門性を最大限発揮できる体制・研修体制作りが望まれること、教頭としての様々な仕掛けが必要であるとの助言をいただいた。